



01. 日本と世界の火山の分布図や映像、模型等で、火山のしくみをわかりやすく解説する地学展示室。地底探検気分を味わえる！ 02. 地震波形モニターなど、浅間山のリアルタイムの計測記録が見られる観測コーナー。 03. 自然展示室では、浅間高原の動植物や生態系の仕組みを紹介。



鬼押出しと草津白根の山並みを一望しながらひと休みできるパノラマシート！館内ホールはWi-Fiも完備。



パノラマシートのそばには、ジオパークにちなんだ書籍や雑誌のコーナーも。コーヒーを飲みながら自由に閲覧できる。

「ジオパーク」が正式認定されたことで、長野原町内のジオパークの拠点として再び注目を集め始めています。

訪れる人がよりゆっくり滞在を楽しめるよう、広い館内もリニューアル。全国でも珍しい非常食を味わうことのできるレストランのほか、ショップでは地元の特産品に特化した「ジオ土産」も勢揃い。また、鬼押出しを一望する窓辺にはカウンター席を設け、コーヒーを飲みながらひと休みできるコーナーも。

博物館の利用以外でも、「浅間園」内の散策やハイキングのついでに、ぶらり気軽に立ち寄りてみるのもおすすめです。



vol.01 [浅間火山博物館]

ジオパークの玄関口 リニューアルした博物館に 出かけよう！

ふらりと立ち寄れる
レストランやショップ、
パノラマシートも登場

浅間山のすぐふもとに広がる「長野原町営浅間園」。見慣れているはずの浅間山も、間近から見上げる姿はひととき大きく迫力たっぷり。その雄大さには訪れるたびに驚かされます。

「浅間園」内の施設、「浅間火山博物館」は、今年で開館50年を迎えます。火山としての浅間山の成り立ちや仕組みを学べる体験型ミュージアムとして、町民をはじめ多くの観光客が訪れるスポットですが、「浅間山北麓ジ

昨年9月に誕生した「浅間山北麓ジオパーク」。雄大な大地の営みと豊かな自然、そこで暮らす人々の歴史や文化など、ジオの視点から見た郷土・長野原の魅力を毎月ご紹介していきます。



という問いかけに対して自分で答えを探っていくうちに、これまで知ったつもりになっていた教科書的な知識だけではない、「生きた」浅間山の姿が浮かび上がってくるように感じました。

博物館を一度は訪れたことがある人でも、また違った発見を楽しめる館内ジオツアー。ご家族で体験してみませんか？

なぜ？ どうして？
ジオガイドとともに
浅間山を再発見。

さらに「浅間火山博物館」では、昨年より新たにジオガイドによる館内ツアーを行っている聞き、さっそく体験！

この日のガイドは、町内の歴史や植物などにも詳しいポランティアガイドの嶋村さん。まずはエントランスで浅間北麓の全体図を確認し、いざ洞窟のトンネルを抜け、地底探検に出発。そもそも火山とはどういうものをおさらいしてから、浅間山独自の歴史や特徴について、自作のパネルやクイズを交えながら、嶋村さんがわかりやすく解説してくれます。

ジオを楽しむためには「なぜ？」「どうして？」という視点が大事という嶋村さん。展示物をただ眺めるだけでなく、「じゃあどうしてこうなったんだろう？」

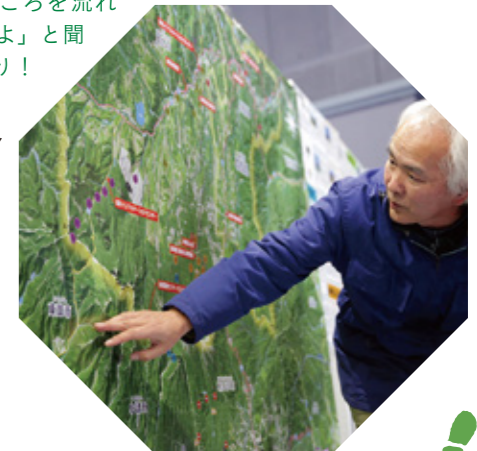
◎今回訪れたのは…
浅間火山博物館

■営業期間 4月1日～11月30日(定休日:水曜日)
■営業時間 8:30～17:00(最終入場16:30)
ガイドによる解説は所要時間30～40分、館内ガイドは料金無料。事前予約も可。
TEL.0279-86-3000 <http://www.asamaen.tsumagoi.gunma.jp>

ガイドとめぐる
館内ジオツアー
を体験！

01

入口のパネルで浅間北麓の位置関係を確認。「浅間山は誕生してまだ5万年の若い山。東側に縦に並ぶ霧積火山群は100万年前からあって、吾妻川も今とは違うところを流れていたんだよ」と聞いてびっくり！



02

浅間山のおもな活動を年代別に模型で表したコーナーへ。有名な天明の噴火の前にも、何度かの山体崩壊やマグマ噴火を経て、山の形が変化してきた浅間山。それぞれの噴火の形跡が見られる場所も教えてもらいました。



03

自然展示室では、地質によって植物の生態系に違いがあることの説明。「浅間周辺は大きな噴火からまだ時間が浅いので、森が少しずつ成長していく様子がよく分かります。そういう意味でもとても貴重な場所なんですよ」と嶋村さん。



ふるさと
再発見

—文化財だより—

[1]

このコラムでは長野原町の文化財の中から、今は指定されていないけれど後世に遺したいと思われものを厳選して掲載していきたいと思っています。執筆は文化財調査委員会を中心にその周囲の方々にも匿名でお願いしていきます。

トップバッターとして【狩宿茶屋本陣】についてご紹介いた



します。先月『概要報告』を全戸配布しましたので詳細は省きますが、かつて応桑小学校の敷地に狩宿関所があり、その関所を通過した宿場の入口にこの茶屋本陣は位置しています。江戸時代後期に建てられ、明治時代には現在の浅間牧場の前身となる吾妻牧場の開設に際し、北白川宮能久親王が実際に3回ご宿泊された建物です。現在の浅間山北麓高原地帯の端緒に関わる建物が約200年間この応桑の地に鎮座しています。今後の予定ですが、平成29年度に国の登録有形文化財に申請し、この歴史的建造物を中心としたまちづくりを地元とともに推進していきたいと考えています。次号は【丸岩城跡】をご紹介します。